

国立研究開発法人水産研究・教育機構の令和6年度における業務の実績及び第5期中長期目標期間評価(見込評価)の業務実績に係る自己評価書の訂正

国立研究開発法人水産研究・教育機構経営企画部評価企画課

国立研究開発法人水産研究・教育機構が公表した令和6年度における業務の実績に係る自己評価書及び第5期中長期目標期間評価(見込評価)の業務実績に係る自己評価書において、項目別評価調書及び項目別評定調書の記載事項の一部に誤りがあることが判明したので、以下のとおり訂正する。

記

国立研究開発法人水産研究・教育機構の令和6年度における業務の実績に係る自己評価書

頁	訂正箇所	正	誤
14	3. 中長期目標、中長期計画、年度計画、主な評価軸、業務実績等、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価 法人の業務実績等・自己評価 自己評価 <評定と根拠> 評価軸2について 原著論文100編を公表した。学会発表は253件であった(令和7年3月7日時点)。	原著論文 159編を公表した。学会発表は253件であった。	原著論文 100編を公表した。学会発表は253件であった (令和7年3月7日時点)。
108	2. 主要な経年データ(※(定)定量的指標、(他)その他の指標) 職員の採用数(うち女性割合)(他) 令和6年度 名)	(1文字削除)	名

国立研究開発法人水産研究・教育機構の第5期中長期目標期間評価(見込評価)の業務実績に係る自己評価書

頁	訂正箇所	正	誤
15	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標) ①主な参考指標情報(評価対象となる指標) 基準値等 (前中期目標期間最終年度値等) さけます資源の個体群維持のために行うふ化 放流実績 (モ) サケ	R03～R06ふ化放流計画 各年度129,000千尾	R04ふ化放流計画 129,000千尾
15	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標) ①主な参考指標情報(評価対象となる指標) 基準値等 (前中期目標期間最終年度値等) さけます資源の個体群維持のために行うふ化 放流実績 (モ) カラフトマス	R03～R05ふ化放流計画 各年度7,200千尾 R06ふ化放流計画 1,700千尾	R04ふ化放流計画 7,200千尾
16 (15)	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標) ①主な参考指標情報(評価対象となる指標) 基準値等 (前中期目標期間最終年度値等) さけます資源の個体群維持のために行うふ化 放流実績 (モ) サクラマス	R03～06ふ化放流計画 各年度2,700千尾	R04ふ化放流計画 2,700千尾
16 (15)	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標) ①主な参考指標情報(評価対象となる指標) 基準値等 (前中期目標期間最終年度値等) さけます資源の個体群維持のために行うふ化 放流実績 (モ) ベニザケ	R03～05ふ化放流計画 各年度150千尾 R06ふ化放流計画 —	R04ふ化放流計画 150千尾
15	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標)	※令和3年度は、親魚の回帰尾数の減少	※サケは、放流数の計画達成率は99%で

	<p>①主な参考指標情報（評価対象となる指標） （参考情報） 当該年度までの累積値等、必要な情報 サケ</p>	<p>が深刻な、北海道根室海域及び太平洋側えりも以東海域に位置する3河川で、計画数の種卵確保ができず放流計画数を下回った。 令和4年度は、令和3年秋にえりも以東海区で大規模な赤潮が発生し、特に2河川の10月以降の親魚の遡上数が著しく少なく種卵の確保が困難となったことから、放流数の計画達成率は90%であった。 令和5年度は、放流計画に対し計画達成率は102%であった。 令和6年度の計画達成率は99%と、概ね放流計画を達成した。</p>	<p>あった。</p>
<p>15-16 (15)</p>	<p>2. 主要な経年データ（※(モ)モニタリング指標） ①主な参考指標情報（評価対象となる指標） （参考情報） 当該年度までの累積値等、必要な情報 カラフトマス</p>	<p>※令和3年度は、北海道の1河川で、採卵された一部の卵質が悪く、ふ化から浮上する間の減耗率が通常より大きく、放流計画数を下回り、計画達成率は89%であった。 令和4年度は、令和3年はカラフトマスの不漁年にあたり、特に根室海区での極端な不漁により同海区の1河川で種卵の確保が困難となり、令和4年度放流数の計画達成率は44%に留まった。 令和5年度は、令和4年の不漁による種卵不足により計画達</p>	<p>※カラフトマスは、令和5年度の放流計画の見直しにより、令和6年度から放流計画1,700千尾に変更されたが、令和5年の不漁による種卵不足により放流数が計画数の19%に留まった。</p>

		成率は32%に留まった。 令和6年度は、放流計画が1,700千尾に変更されたが、令和5年の不漁による種卵不足により計画達成率は19%に留まった。	
16 (15)	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標) ①主な参考指標情報 (評価対象となる指標) (参考情報) 当該年度までの累積値等、必要な情報 サクラマス	※サクラマスの放流数に対する計画達成率は、令和3年度103%、令和4年度106%、令和5年度106%であった。 令和6年度は、1河川において豪雨による増水により親魚を確保できなかったことにより計画達成率は82%に留まった。	※サクラマスは、1河川において豪雨による増水により親魚を確保できなかったことにより放流数が計画数の82%に留まった。
16 (15)	2. 主要な経年データ (※(モ)モニタリング指標) ①主な参考指標情報 (評価対象となる指標) (参考情報) 当該年度までの累積値等、必要な情報 ベニザケ	※ベニザケの放流数に対する計画達成率は、令和3年度128%、令和4年度121%、令和5年度197%であった。 令和5年度に放流計画の見直しが行われ、令和6年度からは放流枠0に変更された。	※ベニザケは、令和5年度の放流計画の見直しにより、令和6年度から放流枠0に変更。
18	3. 中長期目標、中長期計画、年度計画、主な評価軸、業務実績等、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価 法人の業務実績等・自己評価 自己評価 ・原著論文446編を公表した。 学会発表は1,201件であった。(令和7年3月7日時点)	・原著論文581編を公表した。学会発表は1,201件であった。	・原著論文446編を公表した。学会発表は1,201件であった。(令和7年3月7日時点)
37	3. 中長期目標、中長期計画、年度計画、主な評価軸、業務実績等、年度評価に係る自己評価及び主務大臣による評価 法人の業務実績等・自己評価 主な業務実績等 (2) 持続可能な水産物生産	本器具は、令和7年3月に市販され、各種漁獲物の冷凍時の品質向上を図ることが可能となった。	本器具は、市販される予定であり、各種漁獲物の冷凍時の品質向上を図ることが可能となる。

	システムの構築と高度化のための研究開発 本器具は、令和7年3月に市販され、各種漁獲物の冷凍時の品質向上を図ることが可能となった。		
--	---	--	--

*頁の()内の数字は、修正前にウェブに掲載されていた自己評価書の該当頁です。

以上